

## 未完成だからこそ挑戦できる町

中心市街地の整備をはじめとした新しい動きが生まれつつあり、いい意味で未完成な部分が残っているからこそ、変化を楽しみながら町のこれからを一緒につくっていけると感じます。大きな観光地がなく、穏やかに暮らせることや、都心をはじめとしたさまざまな地域へのアクセスの良さも、移住者にとっては心と時間のゆとりを感じられる魅力です。ハード面にはまだまだのびしろがあり、地域ごとの個性がしっかり残っていることは、寄居町ならではの強みです。個性を生かしながら地域同士がつながっていくことで、町の可能性はさらに広がっていくと思います。



移住希望者・創業希望者支援  
空き家・空き店舗利用支援担当

## 松本 哲明さん



「ワークショップや移住塾の活動はいか  
がでしたか。」  
形としては実現できたと思います。特に  
3年目は「農ある暮らし移住塾」など、よ  
り具体的なビジョンを持つ人を対象に内容  
を深めていきました。参加者が急に増える  
ということはありませんでした。何度も  
足を運んでくれる方が増え、移住への意識  
が高まっていく変化を感じたことが印象に  
残っています。



農ある暮らし  
移住塾のチラシ

「参加者からの反応はいかがでしたか。」  
「移住への不安を丁寧に整理してもら  
えて心強い」という声を多くいただきました。  
また、地域の方がイベントに関わり、  
交流を楽しんでくれたことも、大きな成果  
の一つだと感じています。

「ご自身の移住経験は、活動に生かされ  
ていますか。」  
人との出会いが  
移住の満足度を高める  
活動に生かされた  
自身の移住経験

移住先を探す中で見つけた  
寄居町、協力隊という働き方  
地域おこし協力隊に着任した  
きっかけは3年間のビジョン

「地域おこし協力隊として寄居町を選ん  
だきっかけを教えてください。」

もともと地域おこし協力隊を目指して  
いたわけではなく、移住先を探していまし  
た。移住には足掛け7、8年ほどかかり、  
その間には思うようにいかない時期もあり  
ました。そんな試行錯誤を経て、次第に移  
住の実現に手応えを感じるようになり、そ  
の頃から「自身の経験を生かし、地域と移  
住希望者をつなぐ役割ができれば」という  
思いを持つようになりました。友人の紹介  
で前任の協力隊員を知り、好奇心から寄居  
町を訪れたことがきっかけでした。それま  
で寄居町のことほとんど知りませんでした  
が、町の雰囲気や自分のイメージと合っ  
ていました。ちょうど協力隊の募集があっ  
たこともあり、移住先としても仕事として  
もタイミングが合ったと感じ、寄居町を選  
びました。

「着任当初から、3年間のビジョンはあ  
りましたか。」

正直、不安の方が大きかったです。何を  
すればよいのかも分からず、最初は本当に  
手探り状態でした。2年目ごろから活動の  
イメージが見え始め、3年目になってよう  
やく自分なりの形が整ってきたと感じてい  
ます。

はい、生かされていると思います。過去  
に移住先が自分に合わず、戻った経験が  
あります。その経験から、移住の満足度は  
「地域の人との出会い」に大きく左右され  
ると感じました。そのため、移住塾やセミ  
ナーでは、できるだけ地域の人と関わる機  
会を設け、町の空気感を実際に感じてもら  
うことを大切にしてきました。

移住者だからこそ、  
吹かせられる風がある  
今後の活動、町民の方への  
メッセージ

「今後の活動について教えてください。」

移住実現までの経験と、この3年間の実  
績を生かして、移住コンサルタントのよう  
な活動を始める予定です。空き家活用や民  
泊なども視野に入れながら「生き方を変え  
る」「地域を盛り上げる」ことに関わり  
ていきたいと思っています。

「最後に、町民の皆さんへメッセージを  
お願いします。」

3年間、温かく支えていただきありがと  
うございました。不安なときに声をかけて  
くれた方、背中を押してくれた方の存在が  
大きな励みになりました。今後は移住者だ  
からこそ視点を生かし、寄居町に良い風  
を吹かせられるような関わりを続けていき  
たいと思います。



小川町と寄居町で合同開催した移住ツアー

循環する3つのミッション  
3年間の活動内容

「この3年間で、主にごどのような活動  
に取り組んできましたか。」

ミッションは、移住・定住支援、創業  
支援、空き家・空き店舗の活用促進の  
3つでした。最終的には移住・定住支援  
を軸に、スモールビジネスの勉強会や、  
空き家・空き店舗の物件化などにも取り  
組みました。いずれのミッションも独立  
したものではなく、相互に循環している  
ものという意識で活動しました。また、  
制度やノウハウを伝えるだけでなく、「ど  
んな暮らしをしたいのか」「何を大切に  
したいのか」といった内面に目を向けた  
関わりも意識してきました。



地域住民の  
交流の場として定期的で開催した青空カフェ

3年間、それぞれの立場から寄  
居町と向き合い、活動を続けてき  
た2人の地域おこし協力隊員。2  
人に共通しているのは「地域と関  
わり続けること」を大切にしてき  
た姿勢です。地域おこし協力隊と  
しての任期を終えた後も、2人は  
寄居町に残り、活動を続けていき  
ます。これまで培ってきた経験を  
生かしながら、町に新たな風をも  
たらしてくれることでしょうか。今  
後の2人の活躍にますます期待が  
高まります。